

令和 5 年 6 月定例会

令和 5 年 6 月 23 日(本会議) 一般質問

2 藤沢聖苑について

(1)多死社会にたいする対応について

石川:火葬件数が増加していると聞いています。始めに、現在の藤沢市聖苑における運営状況と現状の課題および火葬件数の推移について伺います。

福祉部長:藤沢聖苑の運営状況についてでございますが、平成3年に開設後、運営については専門業者に業務委託を行っております。また、8基の火葬炉と8控室を備えており、1日の火葬件数は18件となっております。

現状の課題につきましては、業務にあたる人員など運営上の制限があること、収骨室や控室など施設的な制限があること、さらには、火葬炉の冷却時間を設ける必要があることから、1日の最大火葬件数を制限せざるを得ない点が挙げられます。

また、火葬件数の推移につきましては、令和4年度は5,000件で、5年前と比較いたしますと1,231件増加しており、年平均では250件程度の増加幅となっております。特に前年度との比較では、437件増加していることから、令和4年度におきましては、急激に火葬件数が増加した状況となっております。

石川:昨今の火葬件数増加は、まさに多死社会を予兆させるものであると思っています。そうした中、令和5年1月以降、火葬予約日が死亡日から2週間以上先となる状態が続いたと聞いています。その際の状況と市の対応について伺います。

福祉部長:令和5年1月以降、火葬予約日が死亡日から2週間以上先となる状況が3月上旬まで続き、この間、ご葬家をはじめ、葬儀関係者の皆様には大変なご迷惑をおかけいたしました。

こうした中、火葬待ち日数を減らすため、臨時的な対応といたしまして、会葬者がおられない事案や、福祉的な火葬事案につきまして、時間外火葬を行い、火葬待ち日数の縮減を図りました。

石川:今後もさらに死亡者数が増加すると想定されますが、安定的に火葬を執行するため、藤沢聖苑の運営をどのように行っていくお考えでしょうか。また、今後の施設の方向性についても市の考えを伺いたいと思います。

福祉部長: 今後の藤沢聖苑の運営についてでございますが、業務委託内容の変更等を行い、現在6枠ございます火葬時間枠を1枠増設することで、1日あたりの火葬件数を現在の18件から21件に増やすことを検討しているところでございます。

また、現在は休場としております友引日につきましても、一部を開場することで繁忙期の火葬待ちの解消を図ってまいりたいと考えております。

今後の施設の方向性についてでございますが、火葬場につきましては止めることができない施設であることから、多死社会が本格化する中で、安定的に火葬の執行を行いながら、施設の整備等を行う必要があると捉えております。

具体的には、火葬件数の増に伴う待合室の増設および火葬炉の増設等について、早期に検討するとともに、将来的な火葬件数の推移やピークを見極めたうえで、施設整備が計画的に進められるよう、再整備計画の策定について、関係各課と連携して検討を進めてまいります。